

極楽寺池の決壊

第二次世界大戦の敗戦を迎えて間もない昭和二〇年（一九四五）九月十七日、鹿児島県枕崎市に上陸した台風は、暴風半径六〇〇kmの非常に強い大型台風となり本州に上陸しました。枕崎台風と名付けられたこの台風は甚大な被害をもたらした。岡山県内でも死者七十九名、行方不明者四十八名の犠牲がありました。このうち死者の約半数は上森原の極楽寺池決壊による犠牲者でした。

極楽寺池（別所池）は、慢性的な水不足に悩まされていた小田村が、戦時中の食料増産という国策を機に



現在の極楽寺池（上森原）

上森川の上流をせき止めて昭和十八年（一九四三）に完成したかんがい用溜池です。枕崎台風がこの地を襲った日は、極楽寺池起工時収入役で後に小田村最後の村長となった居森芳吉氏の記録によると、極楽寺池のある別所青木谷付近では、朝からの豪雨が三〇〇ミを記録し、河川も氾濫していたため警戒団も極楽寺池も警戒していましたが、午後十一時になっても降雨は激しく、居森氏は避難をよびかけながら駐在所・村長宅を訪れ、最後に訪れた小田村役場（上森原）から外に出たところ、極楽寺池はすでに決壊し、あふれ出た濁流で役場の位置でも一・三mの深さの洪水になっていたそうです。わずかな数十分の間の出来事でしたが、濁流は田畑や建物を呑み込み、下森原から中谷村の入まで流出し、大きな損害を与えました。

この極楽寺池の決壊による小田・中谷両村の犠牲は、田畑の流失六〇ヘクタール、家屋建物の倒壊流失二〇棟以上、四十六名が死亡または行方不明となり、中には津山市中島まで流され遺体が見つかった方や、現在でも行方不明のままの方もいます。



宗本素男氏と頌徳碑（入）

この犠牲者の一人には、中谷村長を通算二年勤め、郡会議員・村会議員を歴任し村政に多大な貢献を果たした入の宗本素男氏（享年七十四歳）も含まれていました。

この頃、戦争を避けて神戸市から疎開してきた児童がまだ極楽寺を宿舎にいました。その当時の児童が昭和六〇年に来町した際に綴った思い出の手紙の中にはこの時のことも書かれています。

…あの年は水害があり極楽寺の池から多量の魚が河原の草地に出て、バケツに集め、目玉も骨もむしゃむしゃ食べていたのを思い出します。…『鏡野町史』通史編より

食糧難だった戦後をたくましく生きていくとする子供達の姿は、敗戦のショックに加え水害の悲惨な状況



極楽寺境内にある慰霊碑（上森原）

況の中でもどこか前向きに感じられます。

極楽寺池は昭和二十四年に再び竣工しますが、亡くなられた犠牲者への補償問題はすぐに決着がつかず、極楽寺池建設の設計・施工者である岡山県・小田村（現鏡野町）と、遺族や水害の被害者らで結成された水難者連盟との間で長く裁判が続けられ、昭和四十四年に和解が成立しました。

東日本大震災の被災状況が記憶に新しく、水害の恐ろしさが想像できるかと思いますが、こうした悲惨な出来事が二度と起こらないことを祈りたいものです。

参考資料…『鏡野町史』通史編、『小田の村誌』、『岡山県気象災害誌』

お問い合わせ先

生涯学習課 日下

電話（0868）54-7733